

講義名	計量経済分析		
科目区分	学科専門 展開		
担当教員	森澤 龍也		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

計量経済学は経済データの統計分析を通じて、経済理論を検証し、経済の実態を捉えようとする学問である。この講義では最小二乗法（OLS）という推定方法に絞って、経済の実証分析を行うための基礎を学ぶ。

**到達目標**

経済データを用いた計量分析の基礎的な理論および応用を習得できる。

**提出課題**

講義中課題（演習問題など）を行う予定である。課題は教科書を使用するので、準備しておいてもらいたい。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

PC教室での実習を予定している。次回講義時に講評を述べる。

**評価の基準**

緊急事態宣言下のオンライン講義に当たり、最終評価は提出課題によって行う。

**履修にあたっての注意・助言他**

講義には電卓（計算およびメモリー機能を備えているもの）を持参する必要がある（携帯電話・スマートフォンによる代用は不可）。電卓をもっていない受講生は講義が始まる前に準備されたし。

微分や統計学の知識が必須となるため、経済数学・基礎統計学を修得したうえで受講することが望ましい。また、PC実習を予定しているため、情報処理入門・経済情報処理を修得したうえで受講することが望ましい。逆に言えば、これらの知識がないまま受講した場合、この講義の理解が困難となる。

講義中での私語は厳禁である。質問は遠慮なく尋ねられたい。

教科書	『入門 計量経済学』	山本拓・竹内明香	新世社	2500円+税	978-4-88384-198-1
-----	------------	----------	-----	---------	-------------------

**プリント資料及び参考文献**

必要に応じて、担当者作成の講義レジュメおよび参考資料を配布する。参考文献は適時、紹介する。

**授業計画**

緊急事態宣言下のオンライン講義に当たり、下記の授業計画は一部変更される予定である。第1回の講義資料（オンライン配布予定）を必ずよく読むようにしてもらいたい。

1. 計量経済学とはどのような学問か
2. 記述統計の基本
3. 回帰分析の基本
4. 最小二乗法（OLS）の考え方と微分法の基本
5. OLS推定量の導出
6. OLS推定量の期待値・分散
7. OLS推定量の性質
8. 推定結果の検証：t検定・決定係数
9. 回帰分析上の問題：多重共線性・系列相関
10. 応用実習
11. 応用実習
12. 応用実習
13. 応用実習
14. 応用実習
15. 総復習

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア	: PBL（課題解決型学習）
イ	: 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ	: ディスカッション、ディベート
エ	: グループワーク
オ	: プレゼンテーション
カ	: 実習、フィールドワーク

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

総予習（数学・統計学の復習） 5時間  
予習 1.5時間/回×15回  
復習 1.5時間/回×15回  
試験用学習 10時間

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

適宜、質問を受け付けながら演習および実習を行う。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

この講義は計算や数式展開が他の文科系科目よりも多い積み重ね型の科目であり、講義の時間外にも自分で解いて復習することが内容理解のために大切である。受講に当たり、教科書を手元に準備されたい。